

企 画 提 案 書

平成 27 年 3 月 2 日提出

(1) 企業又は団体名

一般社団法人 AIS プランニング

(2) 主要業務・類似業務の実績

【施設運営】

- 1) コミュニティスペース「より(i)どこオノベカ」(2011年～現在も継続中)
札幌市中央区の山鼻地区において人々の生きがいをつなぐ集いの場づくりとして開始。自主イベントの開催の他、レンタルスペースとしての運営・管理を行なっている。
- 2) さっぽろ天神山アートスタジオ施設管理運営(2014年度～現在も継続中)

【市民交流事業の企画・コーディネート及び運営】

- 1) アーティスト・イン・スクール事業(2005年～現在も継続中)
アーティストが地域に滞在し、小学校を拠点とした創作活動を行い、学校を取り巻く地域住民を対象とした交流活動展開。札幌市では「おとどけアート事業」として展開中。また、2011年からは、トヨタ自動車の社会貢献事業の一環としてトヨタ・子どもとアーティストの出会い事業の事務局を担い、全国各地の芸術文化団体とのネットワーク構築や、コーディネーターの育成など行なっている。
- 2) ドビカーン観音寺(まちづくり事業/2005年～現在も継続中)
香川県観音寺市中心市街地・商店街を舞台とした地域活性化事業。毎年、複数組のアーティストが街に滞在し、地域の魅力をアートの視点から捉え直す活動を展開している。

【アーティスト・イン・レジデンス事業】

NPO 法人 S-AIR (札幌市/2003～2008年)、アーカスプロジェクト(茨城県/2010～2011年度)など各地のアーティスト・イン・レジデンス事業のディレクション及び地域プロジェクトの企画・運営実績多数

(3) 札幌市内に有する貴社の事務所の体制及び人員

代表理事 1 名/理事 1 名/常勤職員 4 名/非常勤スタッフ 6 名 計 12 名
運営ボランティア及びインターン約 20 名(学生、社会人、主婦等) *2015年2月末時点

(4) 実施方針

<基本方針>

- 【グローバルな視点をもつ、超ローカルな活動～さっぽろ天神山アートスタジオは、だれもが当事者になるための装置～】
- ・弊社が運営する既存事業及び新規の市民交流プログラムで培ったコーディネートノウハウを活かし、札幌市民一人ひとりが、創造性を発揮し、生活、文化、産業、そして札幌の街に変化や活気をもたらす当事者として集い、「創造都市さっぽろ」が目指す都市の進化を支えていく市民の主体的な活動の受け皿、生き甲斐を發動できる場と機会を提供する。
 - ・発表の場ではない制作の場である施設の特性を活かし、日常生活から鑑賞レベルまでの広い領域で文化芸術活動と市民の接点をつくる。すなわち、人と人と、アイデアや作品との出会い、創造活動への参加など交流の機会をコーディネートする。
 - ・国内外のアーティストやアート関係者の自由且つ創造的な活動を支援する専門人材を配置し有意義な滞在環境を提供する。
 - ・施設利用の誘致活動を通じ、札幌市内のアート団体、関係者への支援を行い良好なローカルネットワークを構築する。
 - ・都市の優位性に、国際言語であるアーティスト・イン・レジデンスのしゅみ(以下、AIRと表記する)をリンクさせ、質の高いアーティスト、プロジェクトの誘致を計る。同時に、国内外を対象にした文化外交、ボーダレスなネットワーク活動、国際広報活動を行い、札幌市のPR戦略に寄与する。
 - ・天神山アートスタジオの立地を最大限に活かして、近隣地域、天神山緑地との協働や連携をする。芸術文化の視点による札幌地域資源の発掘と魅力の発見を行い、公園や地域の付加価値を押し上げることで地域のにぎわいつくりの一端を担う。

<2015年度・2016年度の達成目標>

【交流スタジオの稼働率アップ】

2014年度に構築した天神山周辺地域のまちづくり団体や商店街、学校、児童館、市民活動団体等との関係性をベースに、2015年度は発展期、2016年度は定着期として位置付け、市民交流プログラムの更なる充実を図る。また、施設利用についての周知、営業活動を徹底し、2014年度に動きにくかった交流スタジオの稼働率向上に努める。

【ファンディング活動と国際的なネットワークング】

- ・まちづくり、教育、福祉の視点で参加型、体験型のプログラムを企画し、事業費を確保、実現する。
- ・札幌市の創造都市、国際交流都市(冬の市長会議、姉妹都市)、観光客誘致重点国・都市との相互交流事業を実現する。①

【広報と市内・国内ネットワークング】

- ・市内、国内のアート関係者、団体に対し、札幌に AIR 施設の始動、天神山アートスタジオの活用方法についての周知を安定的なレベルにあげキープする。
- ・市内のローカルネットワークングにおいては、大学、グループ、他の企画運営事業者との連携、協働事業を実践する。②

【人材育成】

- ・参加型プログラムのマネージメント、アーティスト等の招聘業務及び滞在制作のコーディネート人材の発掘と育成を行う。

企業又は 団体名	一般社団法人 AIS プランニング
-------------	----------------------

(5) 企画提案内容

○アーティスト等の滞在制作活動の誘致及び支援の企画

2015-2016年度プロジェクト・テーマ「公園とわたし〜札幌の歴史と公共について考える〜」

アートワールドを飛び出して私たちの生活により身近になったアート（アーティスト、作品、活動）を札幌の多様なコミュニティと接続する実践的な拠点として整備し、将来的に市内の他拠点で応用可能なしくみづくりの為のプロジェクト企画を提案します。

■ 誘致の手法（2015年度・2016年度の達成目標に対応する①及び②を参照）

2014年度において登録完了したすべての国内外のAIRデータベース、また引き続きコンタクトを続ける連携、提携先の国内外のアート機関とのフェーストゥフェースの打ち合わせや国際会議に参加するといった地道な誘致活動を恒常的に実施する。

- 1) 次期札幌国際芸術祭2017の開催までの2年間で、創造都市ネットワーク、冬の市長会議、姉妹都市、札幌市の観光ターゲット国や都市の大学やアートセンターなどといったディレクター、キュレーターが在籍する団体とプログラム提携を行い、質の高いアーティストやプロジェクトの誘致と受け入れの事業、相互交流事業を実施、在日大使館等に交渉し事業費も合わせて確保する。（国際ネットワーキング事業）

◆ 誘致活動時期：2015年4月～7月

◆ プロジェクト実現時期（予定）：2015年10月～2016年3月（8月～9月はアーティストとの調整や広報業務）

◆ 事業数（予定）：2015年度/2本、2016年/4本

◆ 連携予定（2014年度現在）：創造都市ネットワーク/アンギャンレバン市（フランス）とのメディアアーティスト相互交流事業

- 2) 大学、グループに対し、滞在スタジオの利用を誘致しながら、プロジェクトディレクターによる施設プレゼンテーション、「AIR」や「アートと地域」といったテーマでレクチャーを実施。大学、アート関係者や団体とプログラムの共同開催など施設全体の利用を促す実質的な連携、共同事業を実現する。（札幌ネットワーキング事業）

◆ プレゼン及びレクチャー打診時期：2015年4月～7月

◆ 実現時期（予定）：2015年6月以降随時

◆ 共同開催事業数（予定）：2015年度/1～2本、2016年/3～4本

◆ 連携予定（2014年度現在）：札幌市立大学/ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業・NPO法人S-AIR等

■ 滞在前後及び滞在中のアーティスト等への支援内容

- 1) 現行の利用申請や利用者の義務に関するしくみの改善提案

天神山アートスタジオのSIAP2014を契機にしたオープン、そして施設利用料金の設定自体が「アーティスト等の創造的活動を行う人々」に対する公的な支援であることを利用者に理解いただいた上で、滞在スタジオ利用申請を行う人（団体）に対し、下記項目について現行の公式ホームページ、利用申請書、利用規約、滞在同意書などへの項目追加など改善を提案します。

◆ 提案①市内、他事業者の企画や事業で招聘されたアーティスト等の滞在スタジオ利用に関して、該当する事業広報（印刷物など）に「協力：さっぽろ天神山アートスタジオ」などとクレジット掲載を義務とする。（※施設広報としても併用）

◆ 提案②滞在中の活動計画（詳細）、申請書のモチベーションに応じて「交流プログラム」企画提案、ポートフォリオなど自身の活動詳細がわかる資料を提出することを申請条件とする。

◆ 提案③天神山アートスタジオ並びに「札幌」に関する400～800字程度のレポート（公開目的）提出を依頼する。

上記、施設の運営主旨である「創造的活動に対する公的支援」をふまえ、さらに弊社の運営においては、常勤のプロジェクトディレクター及び、コーディネーターが滞在前後及び滞在中のアーティスト等と連絡を取り、必要に応じた情報提供や、利用者の滞在制作に係る費用確保の活動（奨学金、活動援助金などのファンディング）に必要な招聘状の発行、滞在時のポイントサービス等を行うなどAIRプログラムとして質の高い支援の態度を徹底する。

- 2) セルフファンディング・プログラムとプレゼンテーション・プログラム（国際公募による招聘滞在）

*2014年度からの継続企画：AIR特設ページ（現在作成中）にて告知

【セルフファンディング・プログラム】

滞在を希望する人の費用自己負担ではあるが、滞在時期、滞在内容をアーティスト等利用者が自由に設計できるメインのプログラム。滞在中に、地域及び施設利用者を対象にした交流プログラム等の企画提案がある場合は、プロジェクトディレクターの評価により、採択を決定の上で提案された企画実施をする。

◆ 利用期間：1週間～最大3ヶ月まで（その他、施設利用のレギュレーションに従う）

◆ 事前申し込み制：書類選考あり、スタジオ利用料/有料

◆ 実施期間（予定）：2015年5月～2017年3月随時 / 提案企画の実施頻度：月に1回以上

【プレゼンテーション・プログラム（国際公募による招聘滞在）】

プログラムごとに設定されたテーマに従い、企画提案を行うタイプの国際公募。プロジェクトディレクターを含む複数の選考委員による書類選考の上招聘者を決定する。招聘者は、交流プログラムを1回実施、滞在成果を展覧会などの形式で公開、発表する。プログラム予算枠に応じて、渡航費、滞在費、制作費などの補助金が支給される場合がある。補助金の有無、金額などの詳細は応募要項にて確認のこと。

◆ 滞在期間：1ヶ月～最大3ヶ月まで（その他、施設利用のレギュレーションに従う）

◆ 事前申し込み制：書類選考あり、スタジオ利用料/無料

◆ 実施期間（予定）：2015年度冬季、2016年度夏季、秋季 / 提案企画の実施頻度：年に1回以上

○市民がアーティスト等と交流する機会及び芸術作品に触れる機会の企画

2015年度及び2016年度は、主に平岸・澄川地区のまちづくり団体、商店街組合、市民団体、学校、児童館など2014年度に構築した地域との関係を強化し、市民（地域住民、地元芸術関係者など）がより主体的な参画を促す交流事業を展開します。特にこの施設の特徴である多彩な分野のアーティストの滞在という特異性を活かし、時にはアーティストと協働して子どもからお年寄りまで、あらゆる世代の方々が、楽しみ、学び、遊べる場とプログラムを提供します。

また、弊社ならではのコーディネート力やネットワークを活かし、アーティストの活動や作品が、当館にとどまることなく、広く札幌市民に触れられる機会を創出することで、札幌の文化力の底上げに寄与する仕組みを構築します。

そうした交流プログラムや発表の機会を得ることは、アーティスト、市民両者にとって、地域の隠れた魅力や資源、そして暮らしの中の課題を再認識し、さっぽろ天神山アートスタジオを利用する意義をより深める機会となります。

■ 誘致と支援活動との連動*（ア）アーティスト等の滞在制作活動の誘致及び支援の企画Ⅱ-②をご覧ください。

■ TENJINYAMA BRANCH MEETING～アーティストと過ごす日常～

日曜日の午前、ちょっと遅めの朝食をいただきながら、滞在するアーティストと市民が交流する機会を育みます。メニューは、開催日に滞在している各アーティストの活動紹介と、地域住民やボランティアが持ち込む手作りの朝食。また、時には近隣の音楽家による演奏会やライブ等の定例イベントを企画します。一年を通じて、四季折々の天神山の環境を味わいながら、アーティストとじっくりと交流する出会いと学びのミーティング。

- ◆ 会場：さっぽろ天神山アートスタジオ（主に交流スタジオ）
- ◆ 開催時期：2ヶ月に1回第1日曜日予定/10:00～12:00
- ◆ 対象：札幌市全域の市民（主に平岸、澄川地区）
- ◆ 定員：各回最大30名程度



参考：2014年秋に試験的に実施した滞在アーティストと地域住民との交流会の様子

■ TENJINYAMA ART CAMP～天神山ってどんなところ？アーティストってどんな人？～

夏休み子どもたち、親子を対象にアーティストと過ごす合宿形式のワークショップを開催します。アーティストの創作の場としてのポテンシャルと、さっぽろ天神山アートスタジオの環境を最大限に生かしたカリキュラムを考案し、「発見」と「創造」の喜びを味わう機会を創出します。

- ◆ 会場：さっぽろ天神山アートスタジオ（主に交流スタジオやギャラリー）
- ◆ 開催期間：8月の夏休み期間中で2泊3日（2016年度は冬期開催も検討）
- ◆ 対象：札幌市全域の小、中学校（主に平岸、澄川地区）
- ◆ 滞在定員：最大親子5～6組程度/見学自由



参考：2014年秋に開催したワークショップの様子

■ TENJINYAMA FESTIVAL～天神山文化祭／地域の文化ここに集結！～

さっぽろ天神山アートスタジオと地域が共同で開催する年に一度のお祭り。音楽、美術、演劇、ダンス、料理などあらゆるものづくりをテーマに、参加者一人一人が得意とする表現や技能をお披露目するステージを生み出し、開催時期に滞在をしているアーティストを含め、市内在住のアーティストや一般市民でも気軽にエンタリーができる仕組みを構築し、来館者と交流する機会を提供します。

- ◆ 会場：さっぽろ天神山アートスタジオ（主に交流スタジオやギャラリー）
- ◆ 開催時期：年1回10月or2月の土日2日間～1週間程度
- ◆ 対象：札幌市全域の市民



参考：2014年秋に開催した天神山文化祭での滞在アーティストとその仲間達によるジャンベ演奏の様子

■ SAPPORO ART NETWORK～身近な場所でアートに出会う～

札幌市内に点在するアートギャラリーや文化施設、芸術文化団体と連携し、さっぽろ天神山アートスタジオに滞在するアーティストが制作する作品や活動成果の発表の場を斡旋、提供します。連携するギャラリーや文化施設とは、アーティストトークやレクチャー、ワークショップなどを共同で企画し、さっぽろ天神山アートスタジオに滞在するアーティストの作品や活動を地元芸術関係者や広く市民に触れてもらう機会を創出します。

- ◆ 会場候補：CAI02、salon cojica、to vo cafe、ギャラリー門馬、OYOYO、コンチネンタルギャラリー、新さっぽろギャラリー、アートマンガラリー、シアターキノ、札幌市資料館、市内美術館など
- ◆ 開催頻度：2015年1～2回/2016年2～3回程度

* 展示期間やイベント内容は連携先となるギャラリー、アーティスト等相談のうえ決定する

上記のプログラムを軸に、事業数や実施日程等の実現性を見極めながら、2015年度・2016年度の二年間をかけて札幌市所管部局や地域の連携団体と調整・検討のうえ、より柔軟に発展的なプログラムへと成長させていきます。

企業又は 団体名	一般社団法人 AIS プランニング
-------------	----------------------

○広報

【さっぽろ天神山アートスタジオの広報（プログラム及びイベントへの参加誘致のための広報）】

- 公式ホームページ、ブログ、SNS（2015年度以降新規運用の為、要検討）を活用した定期的な情報更新
- プレスリリース、PRパンフレットの作成と配付
- 過去の滞在者や利用者、ボランティア登録者向けのメールマガジンの配信
- 「広報さっぽろ」「芸術文化情報ステーション」などの札幌市の広報媒体を活用したPR

【交流スタジオの利用者誘致のための広報】

- 施設周辺に関しては、2014年度に構築した関係性と活動実績を基に、近隣の学校、まちづくりセンター、町内会、商店街等との連携による独自媒体（会報誌、回覧板）を活用したPR
- 北海道内の大学などの教育・研究機関に訪問し、アーティスト・イン・レジデンスや地域と関わるアートプロジェクトのレクチャーを実施し合わせて天神山の広報活動を展開する
- 2014に実施した「インフォメーションボード作成」「ご近所ガイド作成」「交流プログラム開発」目的の地域のリサーチ活動の成果を受けて、よりの確な広報ツールの開発と活用
- 公式ホームページを通じて、2014年度実際に利用されたモデルケースの紹介

【滞在スタジオの利用者誘致のための広報】

- 国際公募型アーティスト・イン・レジデンス事業の実施（2015年度/1事業、2016年度/2事業実施を予定）
- 登録済みAIRデータベース及びポータルサイト、国内外のアートセンター、アーティスト支援機関などへのリリース送付（弊社リストによるEメール）
- 国内外の提携機関、在日の海外大使館・文化機関への訪問PR活動と提携のための交渉
- 札幌市内で中長期開催される事業（札幌短編国際映画祭、アートステージ等）とのタイアップ、市内の芸術文化団体の広報活動に連動

○運営体制

2014年度の管理運営において得られた成果や課題を基に、安定的な施設管理運営業務を徹底し、交流イベント等の企画運営のクオリティを支える体制を構築します。また、様々な市民やアート関係者が利用する施設の特徴を踏まえ、札幌市の所管部局との情報共有と意見交換を行ない適切且つ柔軟な業務の遂行を前提に、これまでの芸術文化事業で培ったコーディネーション力を活かした弊社ならではの管理運営体制を維持します。

【重点項目】

- ① 施設管理運営における事務作業マニュアルを確立し、安定的な施設管理運営業務の遂行と、従事者同士のスムーズな業務の引き継ぎが行なわれる連絡体制を構築、維持する。
- ② これまでの事業で培ったノウハウを習得しているコーディネーション力に長けた人材を常時配置し、施設利用者や地域住民との積極的なコミュニケーションを図り、滞在者と市民、そして市民同士の繋ぎ手となる体制を維持する
- ③ ボランティアやインターンを積極的に受け入れることにより、滞在制作のサポートやイベント運営のスキルを身につけ、札幌市における芸術文化事業の発展に寄与する人材育成の一端を担う。

【天神山アートスタジオでの人員と取組体制】

- ・ 施設運営管理代表責任者 1名
- ・ プロジェクトディレクター 1名
- ・ 施設運営管理マネージャー 1名
- ・ 施設運営管理事務コーディネーター 3名
- ・ 経理事務 1名
- ・ 事業コーディネーター 2～4名
- ・ 運営ボランティア及びインターン 約20名

